

■インド：火力発電プロジェクト、地元民の反対で遅延

2016年7月1日付の報道によると、スリカラム石炭火力発電所（超々臨界圧、計240万kW）の建設プロジェクトが、地元住民と同州の党勢力の反対により遅延している。発電所の建設については、アンドラ・プラデシュ州のナイドゥ首相が2014年11月に訪日し、住友商事との間で建設に関するMOUを締結した。しかし、建設候補地の選定に時間を要し、2015年3月に同州のPolaki mandalに決定したものの、敷地面積は当初計画の3,000エーカー（約12km²）から、約半分の1,300エーカーに縮小した。アンドラ・プラデシュ州政府は、インドの中でも日本企業の誘致に積極的な州の一つである。